

2024年11月14日

中日本支部会員 各位

一般社団法人日本自動車部品工業会
中日本支部 中小企業部会

講演会（Web）開催のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は支部活動へご支援ご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

さて、中小企業部会主催による講演会を下記の通り企画いたしました。今回は、トヨタ車体株式会社 社員ドライバー 三浦昂様にご講演をいただきます。新年1月3日から始まるダカールラリー2025の直前での講演会になります。レース直前の意気込み、緊張などこの時でなければ感じられない非常に貴重な講演です。

業務ご多用の中誠に恐縮に存じますが、皆様方のご出席を賜りますようご案内申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時：2024年12月18日（水） 15：00～16：15
2. 開催形式：Zoom ウェビナーによるライブ配信
お申込みいただきました聴講者の方々に12月16日（月）までにURL付招待メールを配信いたします。
3. 講 演：『ダカールラリー奮闘記』
講 師：トヨタ車体株式会社 社員ドライバー 三浦 昂 様
4. その他：
 - 1) 当ご案内は支部全会員の皆様にご送付いたしておりますので、中小企業部会会員以外の方も、是非多数ご出席をいただきたくご案内申し上げます。
 - 2) ご出席の場合は、12月13日（金）までに中日本支部 HP からお申込みください。お申込み方法は次頁をご覧ください。

- ◆ 下記ホームページよりお申込みください。

中日本支部 HP : https://www.japia.or.jp/central/news/topics_detail39/id=5264

※お申込後に受付完了メールが届きますので、講演会の名称にお間違いがないかご確認ください。メールが届かない場合は、お申込が完了していません。
また、メールの受信制限をしている場合は、下記メールアドレスを受信可能に設定していただきますようお願い申し上げます。

受付完了メールアドレス : no-reply@japia.or.jp

(このメールへの返信はできません)

- ◆ お申込みいただきました聴講者の方々に 12 月 16 日 (月) までに URL 付招待メールを配信いたします。

※お申込み後のキャンセルは、chyubu@japia.or.jp までご連絡ください。

5. お問い合わせまたは連絡先 :

一般社団法人日本自動車部品工業会 中日本支部
TEL (052) 971-5230 FAX (052) 971-5241
E-mail chyubu@japia.or.jp

TLC DRIVER

三浦 昂 AKIRA MIURA

トヨタ車体株式会社 総務部 広報室



【主な経歴】

- 2005年 トヨタ車体に入社
- 2006年 社員ナビ選考にてナビ候補に選抜
- 2007年 社員ナビとしてダカールラリー市販車部門デビューウインを果たし、以降2015年まで、ナビゲーターとして計7回のダカールラリーに参戦、2度の市販車部門優勝。
- 2016年 ドライバーに転向、以降現在まで、ドライバーとしてダカールラリーに参戦、4度の市販車部門優勝。
- 2019年 ランドクルーザー300シリーズの開発ドライバーとして市販車開発にも携わる

【戦績 (DRIVER)】

- | | |
|---|---|
| 2015年 モロッコラリー市販車部門優勝 | 2020年 アンダルシアラリー市販車部門優勝
ダカールラリー市販車部門準優勝 |
| 2016年 ダカールラリー市販車部門5位
シルクウェイラリー市販車部門準優勝 | 2021年 ダカールラリー市販車部門優勝
モロッコラリーオープンクラス準優勝 |
| 2017年 ダカールラリー市販車部門準優勝
モロッコラリーオープンクラス7位 | 2022年 ダカールラリー市販車部門優勝
モロッコラリー市販車部門優勝 |
| 2018年 ダカールラリー市販車部門優勝
シルクウェイラリー総合20位 | 2023年 ダカールラリー市販車部門準優勝 |
| 2019年 ダカールラリー市販車部門準優勝
シルクウェイラリー市販車部門優勝 | 2024年 ダカールラリー市販車部門優勝
モロッコラリーオープンクラス優勝 |



世界一過酷なモータースポーツ『ダカールラリー』

TLCがランドクルーザーで挑む『ダカールラリー』。灼熱の砂漠や硬い岩場の連なる山岳地帯など、道なき道を走破するクロスカンントリーラリーという競技の一つです。

ダカールラリーは、厳しい競技環境や日程、走行距離から、完走率が5割に満たないことも多く、「世界一過酷」と称されます。

『ダカール』の名に宿るプライドと冒険精神

ダカールラリーは、1978年12月、フランスの青年でオートバイレーサーのティエリー・サビーヌの発案により冒険の扉が開かれました。

パリをスタートし、サハラ砂漠を越えて、アフリカ大陸のセネガルの首都ダカールをゴールするルートであったため、『パリ・ダカ』と呼ばれ広く親しまれました。

その後、開催地域の政情不安により、2009年から2019年は南米開催に。

そして、2020年からは新たな冒険の地を求めて、中東・サウジアラビアに舞台を移し、開催されています。

始まりの場所『パリ・ダカール』から離れた今も、大会名には『ダカール』の名が引き継がれました。

その名に「“世界一過酷なラリー”の自負」と「絶え間ない冒険精神」を宿し、尚多くの人々を魅了し続けています。

道なき道が、人を、クルマを鍛える

ダカールラリーは約2週間掛けて、総走行距離約8,000kmを走り切ります。

これは地球一周の約1/5の距離にもなります。

走行工程（ステージ）の多くは、宿泊地（ビバーク）と競技区間との移動区間（リエゾン）があり、1日の走行距離が約1,000kmに及ぶこともあります。

ルートは、ロードブックと呼ばれる指示書で提示されます。指示書と言っても、区間距離と目標物が示された簡易的なもの。

四輪の場合は、コ・ドライバーと呼ばれるナビゲーターが同乗しており、ドライバーにルートを指示します。

的確にルートを進むためには、ナビゲーターの頭脳と経験、そしてドライバーとの信頼関係が求められます。

市販車部門でのダカールラリー挑戦がランドクルーザーを強くする

TLCは、1995年の初参戦から25年以上にわたり、ランドクルーザーで市販車部門に参戦しています。

市販車部門とは、安全装備の追加など規則により変更が義務付けられる箇所以外は市販車に近い状態で走行することを前提にした部門です。

過酷な状況下でもクルマを壊さずに走り切ることが求められ、ベースとなる市販車の性能の高さが重視されます。

TLCが目指すのは、ランドクルーザーを極限の環境で鍛え、もっといいクルマづくりに貢献すること。

未来のクルマに求められる進化のヒントを求め、市販車部門での勝利を目指し続けています。

トヨタ車体の社員がチームの一員として挑戦

トヨタ車体は、自社の社員の中から監督やドライバーやナビゲーターを選出し、チームメンバーの一員として起用しています。

社員自らもモータースポーツの現場で鍛えられ、もっといいクルマづくりに取り組む人材育成に繋がっています。